



2001.3

TIAニュース THE VOICE

No.17

編集・発行 財団法人高松市国際交流協会

TIA ニュース・THE VOICEには、高松市の国際交流についての声を載せていきます。

（財）高松市国際交流協会 設立10周年記念 特集号

どうなる世界・Doする高松

INDEX

- ★（財）高松市国際交流協会 設立10周年記念フォーラム 「どうなる世界・Doする高松」
- ★高松・南昌友好都市提携10周年 記念事業・市民訪中親善使節団に参加して
- ★THE VOICE 事業報告 ★グローバル・トーキング
- ★農業研修を終えて ★気に入っています「高松」 ★INFORMATION

(財)高松市国際交流協会



設立10周年記念フォーラム

設立10周年記念フォーラム

フォーラムを開催するにあたって

高松市市制100周年の年に設立された(財)高松市国際交流協会は、今年で設立10周年を迎えました。この間、高松市在住の外国人は平成2年の1,137人から平成12年には2,304人と倍増し、交流の促進を図る国際交流団体の活動も着実に地域の中に溶け込みつつあります。留学や観光、仕事などで海外への渡航者も増加し、またインターネットなどの普及により高松でも国際化が非常に進んでいます。

このフォーラムでは、多文化共生社会の到来の中で、友好親善活動から相互理解、国際協力とダイナミックに展開する21世紀の国際交流のあり方を、経済・教育・市民活動など社会の第一線で活躍している方々をゲストスピーカーに招き、それぞれの視点から語っていただきました。主催者としては、「Think Globally, Act Locally」を地域社会の中でどのように実践し、国際化に対応した魅力ある町をつくるか、それぞれの話のエッセンスの中から市民の皆さんがヒントを見つけていただければ光栄です。



ごあいさつ

高松市長 増田 昌三

現在の時代の潮流として情報技術革命によるネットワーク社会の進展と、さらなる国際化がごございます。昨年の10月中国南昌市との友好都市提携10周年記念事業に参加するため、中国を訪問した帰途、桂林市を訪問いたしました時のガイドさんが、インターネットを通じて高松市のホームページを見て、高松市のできたばかりの総合計画のことをよく知っておられ、世界がこんなにも狭くなっていることを、つくづく実感した次第でございませう。

政治や経済、文化など、世界の中で今後どういふふうに進んでいくのか、そういった潮流をより早く正確に知ることは、これからの私たちにとって大変大事なことでないかと存じます。また、ご承知のとおり、サンポート高松の開発を進めておりますが、国際化に向けた基盤整備が着々と進行しているところですので、ハードの施設面だけでなく、集客のためのおもてなしの心といひますか、ソフト面でのシステムを作ることがこれからの国際化に重要ではないかと存じます。このため、人の集まる国際的に魅力的な町を作ろうという市民の皆様の熱意と参加が非常に大切であります。

このフォーラムが今後の高松市の国際化に対応した魅力ある都市実現に繋がってまいりますことを期待いたします。

ごあいさつ

(財)高松市国際交流協会 副理事長 丸山 修

財団法人高松市国際交流協会は平成2年の8月に高松市や民間の国際交流団体と相互の連携を図りながら、地域レベルの国際交流を推進することを目的に設立されました。

これまでの10年の間、海外諸都市との国際交流事業や、市民の国際交流活動に対する支援、または、国際交流に関する講演講座、研修会の実施、留学生に対する支援事業など、多種多様な事業を行い皆様方のご協力のお陰で大きな成果を収めております。

本年は高松市が中国の南昌市と友好提携10周年の年でもありますので当協会といたしましては、去る7月に南昌市から少年宮の少年たちが来高し歌舞の公演をいたしました。また、10月には市民親善訪中団120人を南昌市に派遣する等の記念事業を行い、また、来年はアメリカのセント・ピーターズバーグ市との姉妹都市40年にあたりますので、両市の少年野球の交流試合や市民の相互訪問行事などを予定しております。

本日の国際交流フォーラムには、「どうなる世界DOする高松」のタイトルでございませうが、パネリストの先生方から示唆に富んだお話を伺いできると、私も大変楽しみにしております。

最後になりましたが、皆様方におかれましては(財)高松市国際交流協会に対して、今後ともご協力を賜りますようお願いいたします。



(株)NTTドコモ四国
代表取締役常務
中澤正良氏

必要なのは
感性とソウゾウリョク

中澤：

IT革命は、距離・位置・規模・年齢・男女...etc.の格差を解消するもの。アイデア、行動力を持った人が成功します。世界を動かすのは「どれだけ価値を提供するか」「どれだけ影響力があるか」です。インターネットを利用すると、誰もがお金や手間暇をかけることなく世界中に情報を発信・受信、検索することができます。だからこそ優れた感性と創造力・想像力の習得、教育のあり方が大切です。覚えるのではなく、感性を磨く教育が必要なのではないでしょうか？

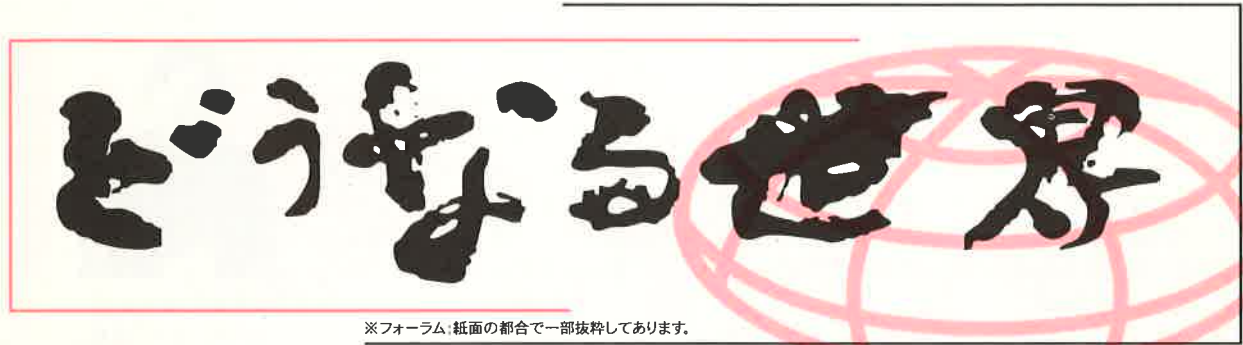
コーディネーター：

難しいお話ばかりかと心配しておりましたが、クリエイティブやイマジネーションのない子どもたちが増えるのではないかということ、そして感性を磨くことが大切だという教育の視点までご指摘いただき、感銘を受けました。

経済学的見地から高松を述べていただくとどうなるでしょうか………？



コーディネーター
(財)高松市国際交流協会
事務局長 吉岡御井子



※フォーラム:紙面の都合で一部抜粋してあります。



香川大学経済学部教授
ラナデ・R・ラヴィンドラ氏

人と町

ラナデ：

人間として町として、世界がどう変わっていくかが大事です。サンフランシスコのように金が発掘されただけで大きくなった町、そこに住む人向けの経済市場ができたお陰で発展していったロサンゼルス、ある人物の存在で町のあり方が変わっていったニューヨークなど。これからのIT革命に対してどういった戦略を立てるかが大事ではないでしょうか？

コーディネーター：

何もしないで成長する町、しっかり自然を活かして成長する町があるということ、コミュニケーションの大切さをお伺いしました。では、地方の経済のコミュニケーションのトップとして就航9年目を迎えられましたアジアナ航空高松支店長の西澤様、どうぞ。



西澤：

お客様のニーズにお応えするため共同運航(コードシェアリング)を進めるほか、乗り継ぎ地での手続き要らずのスルーチェックインができるよう、複数の航空会社がサービスを共有する連合体が現にできてます。今後おそらく航空業界はこういった連合体が競争しながら共存していく流れになるのでは………？

空は
ボーダーレス



アジアナ航空(株)
高松支店長 西澤明夫氏

コーディネーター：

これから高松~韓国間の人の流れが盛んになって多くのサービスをしていただくことは、私たちにとって大変嬉しいことなんですが、そんな中でも外国の方が来られたときに、歓迎してお接待をするのは主として女性です。そこで、高松商工会議所婦人会の会長の吉岡和子さんに、高松を代表して女性のパワーについてお話いただきます。



高松商工会議所婦人会
会長 吉岡和子氏

普段着のまま

吉岡： 四国には300年以上も前から国際交流にあたる遍路道があり、お接待することで外からの人間を温かく受け入れてきたのです。この「お接待」を支える女性の役割は非常に大きかったと思います。讃岐の先人の心を学び、現在私たちが外国人を受け入れるに際して、無理することなく、また構えることなく、ありのままの姿で国際交流ができれば、と思います。

コーディネーター：

まずは足元から。国内交流もしっかりしておかなければ、国際交流はできませんね。女性の力も無くてはならないというお話でした。さて今度は世界に目を向けまして、IMF国際通貨基金でお仕事をされてました日本銀行高松支店長の田中克さんにお話を伺います。

田中：

讃岐の特徴ある古墳を見て、讃岐の人たちは2000年以上も前から渡来人の力を自然と受け入れてうまく共存してきたのかなと思います。この地は国際化に向いているのではないかと思います。国債の利率、アメリカで6%前後、日本で1.6%です。今後10年でアメリカは5%以上の成長を期待され、日本は1.5~1.6%しか成長しない、と見て買われているのが実態です。もし「高松市債」というものを買うとすると、どんなイメージを描いてそれを買うか。20年・30年後を考えて、今ここで何をすべきかを考えれば、高松も世界の動きに合わせて動いていけるのではないのでしょうか。



日本銀行高松支店
支店長 田中 克氏

高松市債発行？

コーディネーター：

「高松市債」のようなものができるのをイメージしながら、おたずねします。ジェットロの所長の加茂さんは、貿易に力を注がれておりますが、そのあたり、如何でしょうか？



ジェットロ香川貿易情報センター
所長 加茂光司氏

国際交流
全開時代に突入

加茂：

貿易だけでなく触れ合っていたのが、今や相互に外国投資、企業投資が始まり、技術交流、インターンシップ等を通じて全面的な交流の時代に入っています。国境がなくなり、都市と都市が直接付き合い合う時代とも言えます。地域経済の協定を結ぶには、都市間で結んだほうがずっとネットワークがいい、ということです。私たちは日本国香川県高松市という区切りの中で、いつまでいられるかどうか、皆さんと考えていきたいです。

コーディネーター：

それでは最後になりますが、香川大学の工学部開設に当たられまして、インターンシップをはじめ海外との交流、人材育成に力を注がれておられます、石川先生、お願いします。

石川：

工学部の創設理念は文理融合。ベンチャーマインド、人間理解、国際感覚を身に付けてもらいます。そのために海外へ、インターンシップで出て行ってもらいます。外国体験をして英語の重要さを感じ、日本について無知だということに気付くのです。国際会議、シンポジウムなどを香川の地で開催したり、外国から留学生や技術者、研究者を受け入れると同時に、我々の学生を外国へ送り出すことを通じて異文化理解を推進させていきたいと思っています。香川・高松に「また来たいな」と思っていたらいいですね。聞きますと、高松の人は外国人に対する態度が大変開けていてよろしいとか。



香川大学工学部
部長 石川 浩氏

「また来たいな」と
思ってもらえたら...

コーディネーター：

いろいろな視点で各界の皆さんのご意見を頂きました。
それでは本題です。「私たちはこれからどうすればいいんだろう？」
「こうすればもっと良くなる」、会場の皆さんと一緒に考えながら、
ワンポイントで示唆を頂きます。



中澤：

テクノロジーそのものではなく、結果として生まれるお金をかけずに手軽に情報のやり取りができる環境を大いに利用することが重要だと思います。「いかにして高松をもっと世界に知らしめるか」です。

- ・ 遍路文化の「お接待」に代表されるもてなしの心
- ・ 穏かで風光明媚な瀬戸内海
- ・ 産官学が共同したインテリジェントパーク

こういった高松の美しさ、豊かさを市民の皆さんが再認識して世界にアピールすべきです。

ラナデ：

高松が楽しいとリピーターが増えてどんどん活性化するでしょう。ただ、経済的に発展していくためには実際に政治家が動かななくては。ちゃんとした人を選びたいですね。



D^どお^うお^る高^松

※フォーラム: 紙面の都合で一部抜粋してあります。

西澤：

直接人との交流、物の交流、情報の交換ですね。ただ定期便が就航、増便すればよいのではなく、利用者を増やしていくには支援も必要です。お客様の1割が韓国から、9割は四国からということは、高松に対する認識が低いということです。もっとPRしていいと思います。

吉岡：

国際交流には二通りあると思います。旅行など、他国の文化に触れ楽しんだりする交流。反面、私費留学の苦学生や日本語の不自由な外国人労働者たちは困難な生活をおくっているケースがあります。これら在住外国人たちが日常生活について、気軽に相談できるような場所を作る必要があると思います。お互い知恵を出し合い、さまざまな生活の問題に対して展望を開いていくことを真剣に考えたいです。

加茂：

ビジネス交流と地場産業の活性化のため、小豆島とスペインのアンダルシア地方とのオリーブ産業の交流を始めております。高松は人口33万、教育水準も高く、素晴らしい施設があり、立派な条件が揃っている場所なので外資誘致を大いにやっていくべきです。あと、女性の力をもっと利用すべきです。いろんな分野で女性にリーダーシップを取っていただきたいですね。そして世界的な視野を持つ人材を育てることです。そのためには文化・ビジネス・経済、あらゆる意味での国際交流を進めていって子どもたちにその姿を見せてあげることです。





石川：

日本中から香川大学に来ていただいて、この地に残ってもらえるような受け皿作りを考えております。もちろん国際会議、ワークショップ等をこれまで以上に開き、世界中から来ていただきます。インターンシップの学生を送り出し、受け入れる。やって来た学生の口コミで「高松が一番良かった」という噂を伝えていける仕掛けをしたいですね。国際交流協定をどんどん進めて、この地にいろんな国々の学生・研修生が来てくれる、或いはこの地から世界中に送り出せることを通じて、高松がどんどん活性化していけばありがたいです。皆様のご期待に応える工学部を目指します。



コーディネーター：

パネラーの方々から、人・モノ・情報・経済・ソフト・ハード、いろんな角度から切り口を、示唆いただきました。それではコメンテーターの皆さんに、それぞれのお立場でのお話を聞いてみたいと思います。高松は今や中国の方が随分多くなりました。当協会のイベントに参加される方も多いんですが、一般的に見るとお顔がアジア系ですので「外国人の参加は少ないんですか？」とよく尋ねられます。そういった中で、私たちはこれから中国の方との共生、といった大変大事なものを抱えております。このあたり、毛先生、お願いします。



グローバルスタンダード

毛：

キーワードは「変化」。ヘンな社会になるんじゃなくて、変化に富んだ社会になるでしょう。その場合に大事なのが「選択」。国や行政にやってもらいたいことを選べるような環境作りが大事です。そして「グローバルスタンダード」ですが、全てをこれに乗せる必要性はありません。むしろ日本人の情緒を重んじる精神や、感情の表現方法といった魅力的な「個性」はそのまま維持していただきたい。そして危機意識と明るい将来の展望とをバランスよく共存させること。最後に「旅」。旅をして自分の目で見て体で感じて、良いアイデア・creation・imaginationが同時に出てくるのではないのでしょうか。

香川短期大学
助教授 毛 勇氏

キャサリン：

「どうする高松」よりも「どうする私」ですね。私自身ができることと言えば「接すること」です。皆さんの考えを聞いたり、自分の思っていることを伝えるのが一番根本的で大事なことだと思います。私にできるのは、実生活に関するいろんな現実的な問題や香川の文化や考え方などを、TIAの情報誌のほかにホームページ等で情報発信することです。もちろん英語だけでなくいろんな言葉で。皆さんに考えていただきたいのは、「自分に何ができるか」ということです。

どうする私



児童文学翻訳家
平野キャサリン氏



人間・人権

ジャンクリストフ：

日本に来て気付いたことは、まず人間であることを一般の人はなかなか認識していないということです。人権とは、相手の中で自分の存在を認識する、自分の中で相手の存在を認識すること。そこから社会が生まれてくると私は思います。高松はこれから、もっと人権に基づく発展を目指して社会を作らないといけません。自然環境保護、社会発展、人間発展、それぞれの点から市民レベルから活動して新しい社会発展を考えるべきです。

香川大学法学部 研究生
エララー・ジャンクリストフ氏



? 会場からの質問

21世紀、四国が、高松が世界に発信するときに何か**シンボル**になるような、高松の市民が、「これは高松が世界に自慢できるものだ」というものは何になるのでしょうか？

コーディネーター：

素晴らしい質問をありがとうございます。それではみなさんにお伺いしましょう。一言、**ひとつこと**で結構です。

西澤：

やはり、**讃岐うどん**でしょう。

吉岡：

「**讃岐女**」も挙げたいですが……。素晴らしい島々を誇れるものにしたいですね。

中澤：

地中海より素晴らしい、**世界で一番美しい港**に、ぜひともしたいです。

田中：

大阪の**ユニバーサルスタジオジャパン**～世界最長の吊り橋～高松～鳴門の渦潮のコースは外国からの観光客に大喜びされると思います……。

ジャンクリストフ：

物ではなくて、**人権尊重宣言**をした町、というところを自慢に思います。

加茂：

石川先生のおっしゃった、「香川でのインターシップが**最高**だった」という**イメージ**ですね。これで世界中の学生がどんどんやってきますよ。

ラナデ：

レオマというテーマパークがなくなったのは残念ですがパークという言葉どおり、「**栗林パーク**」にしたらどうですか。

石川：

パンフレットに書かれた「**瀬戸の都 高松**」のフレーズ、なかなか素晴らしいと思います。

香川高松四国

キャサリン：

埋立て用の土砂のために、**島々が削られる**のが心配ですが……。本当にいい財産だと思うので守ってほしいですね。

毛：**人**が集まれば良いアイデアが出て、自然に良いテーマパークができるんじゃないかと思います。心の中にいつも自分の花園を構築していくと一番美しいのではないのでしょうか。

まとめ

瀬戸大橋が開通したのは、1989年平成元年で、新高松空港の開港を契機に四国・香川高松の文化・経済交流が盛んになり、留学生、研修生を含めた在住外国人も多くなり、国際交流が身近になってきました。また、民間の国際交流団体が各々の特色を活かしながら、諸外国との交流をはじめ、行政とのリンクで勢いのついた時代でした。そして民間の裾野を広げた10年でもありました。21世紀は私たちの住む香川・高松がさらに飛躍、発展していくためにも、国際化の諸情勢の変化に的確に対応し、国際社会の一員として国際化の問題により積極的、主体的に取り組み、世界に開かれ、大きく貢献する地域づくりを進めていくことが大切です。

そこで「どうなる世界・DOする高松」のフォーラムは、人・モノ・カネ・情報という角度で、各界のスペシャリストを中心に300人の会場の人たちと一つになって考える場になりました。会場の、「国際交流青年のつどい」の三野さんからは、「21世紀の高松の国際交流を考えると、行政交流、生活交流を明確に目的を整理して事業を組み立てて欲しい」との意見がありました。

「サンネット若者塾」の柘植さんは「事業目的の明確化に取り組み、先を見越したビジョンを打ち出すことできる。そのためにも(財)高松市国際交流協会TIAにリンクした民間のシンクタンク機能を持つべきではないか。姉妹都市間交流が行政交流だけにならぬように。」「高松街づくり協議会」の蓮井さんは、「これから10年の高松の国際交流に関するビジョンが必要。」NTTドコモの福家さんからは、「四国のテーマパークの一つであったレオマワールドが無くなり淋しい。21世紀、四国・高松が世界に発信するときに、世界に自慢できるシンボルになるものは何か」等の提案が積極的にいただき、フォーラムの中でそのキーワードがパネリストから上記のように出されました。21世紀の真の国際交流は、国際化推進の原動力となる県民・市民や民間団体、大学、企業、行政機関等がそれぞれの役割と責任を果たしながら、相互の連携・協力を密にし、主体的に取り組んでいく必要があることを再認識するフォーラムでした。

南昌市との友好都市提携10周年記念事業

高松市は、今年度、南昌市との友好都市提携10周年を記念して、(財)高松市国際交流協会と共催で次の3事業を行い、多くの感動を市民に提供しました。

① 南昌市紹介写真展

7月1日(土)～2日(日)、丸亀町レッツで実施。南昌市の知名度アップのために、同市の書道家による書道の実演、市内篤志家による中国文物の展示、中国茶の接待等を行い、連日満員の大盛況でした。驚くほど発展している南昌の都市および悠久の自然の写真に多くの市民が感銘。また、2月13日～16日には、第2回目の写真展を市庁舎で行いました。

② 南昌市少年宮の高松公演

7月20日(木)、高松市民会館にて1600人の市民が、南昌市からの少年少女が繰り広げる雑技や踊り・演奏に感激。本市側からも市内の子どもたちが歌劇で共演。日中共演が見事に花咲いた一日でした。なお「少年宮」とは、6歳から15歳までの子どもに対し、芸術・音楽・雑技・体育・電子などの分野を専門的に訓練する校外「塾」。

▼出発前高松空港での代表団



▲高松市・南昌市友好会館の展示会

③ 南昌市友好訪問(高松市公式訪問団・市民親善使節団)

10月6日(金)、チャーター機で高松空港より出発。増田市長を団長とする公式訪問団は13人、櫻村工ミ団長の市民親善使節団は120人が参加。南昌市では「この10年の交流の歴史を積み上げ、今後も市民交流をさらに発展させたい。」と、南昌・高松両市長があいさつ。

まさに、国賓なみの「すべて青信号」の送迎やホテル前での中国式の歓迎式典、とにかくてっかい南昌空港・南昌駅・開発区のマンション群などに度肝を抜かれた様子の参加者。本市には、約60人の南昌出身者が来ており、スポーツ、経済、文化など市民レベルでの交流が、今後ますます期待される、そんな息吹が感じられた友好訪問でした。



▲江南三大名楼のひとつ「滕王閣」



南昌市訪問をして、日頃から目にしている風景と違うという感覚を持ったところ（一部）を紹介します。

まず、到着した空港では、飛行機が着陸する場内で、大歓迎の横幕での接待。記念植樹では新興のマンション群（高松とは比較ができないくらいの規模、さすが中国だ。）の中の河川敷公園で、増田市長と劉市長の握手。

整備がされた滕王閣はまるで大阪城みたい。南昌駅の大きさはランドマークであり、400万人口の陸の港である。町を走る自動車やトラックは懐かしさを感じる風景で、とても楽しい。

ご覧ください。



▲南昌市劉偉平市長とガッチリ握手をかわす増田市長（記念植樹でのひとコマ）

南昌市

訪問スナップ集



▲南昌空港に到着した代表团



▲南昌市街地のマンション群

高松・南昌 友好都市提携10周年記念 市民訪中親善使節団に参加して（平成12年10月6日～12日）



団員 大熊象三

滕王閣など市内観光

南昌市に入ったの第2日目の朝は、霧に包まれた湖面をミズスマシのように迂る数隻のカヌーで明けました。というのも、南昌市の格別なご好意により用意された五湖大酒店は、湖の中に突出たホテルで、一本の通路以外はすべて湖に面する構造で、どの部屋からも皆湖面が望めたのです。

この日もバトカーの先導によりノンストップで、まず「八一起義記念館」を見学しました。この4階建ての建物は、共産主義革命軍の最初の拠点として南昌市の誇りであり、説明パネル等以外は、当時のものがそのまま保存してありました。説明を受けても使節団のご婦人方の中には、なんのための革命がよく判らないという声が聞かれました。

その後、両市の市長と議長による記念植樹式典に臨み、南昌市の木「樟」を2本植えるのを見てから、三大名楼の一つ「滕王閣」に登り、各人それぞれに眺望とショッピングを楽しみました。

「金昌利」レストランでの昼食は、煌びやかな衣装をまとった中国女性達の舞踊を見ながら高級料理に舌鼓を打つことになり、使節団一同は、将に王侯貴族になった気分を味わい大満足でした。



第8回 高松国際交流青年のつどい

日時：平成12年7月29日・30日(土・日)
場所：屋島少年自然の家

TIAのボランティアさんが集まって企画から作り上げました。たくさんの人たちとの楽しい交流が夜遅くまで続きました。



高松まつり 「国際交流おどり子連」

日時：平成12年8月14日(月)
場所：中央通り

高松の夏の風物詩である高松まつりに「国際交流 おどり子連」も参加しました。今年は外国人の参加者にはゆかたを一式プレゼントして、大変喜ばれました。



さぬき国際交流 お正月会

日時：平成13年1月14日(日)
場所：香川県社会福祉総合センター

毎年恒例のお正月会が行われました。今年は世界のお正月料理交歓会をテーマに、フィリピン、中国、ブラジル、日本の料理に舌鼓を打ちました。

このお正月会は、国際交流団体によって構成される実行委員会が運営しています。



外国人のど自慢 お国自慢大会

日時：平成13年1月14日(日)
場所：香川県社会福祉総合センター

例年どおり、たくさんの声援を浴びながら、お国の民俗衣装を身にまとった外国人が、自慢ののどを披露してくれました。



かがわ 国際交流フェア 2000

日時：平成12年10月15日(日)
場所：中央公園

「Eat & Join おいしい世界食べにおいでよ」をテーマに、今年もいろいろな国からの参加者は屋台を作ったり、外国のことをもっと知ってもらおうとパネル展示やステージでのパフォーマンスを披露しました。

高松市のブースでは、外国人の方に無料でパソコンを提供するという事で、早くから大勢の外国人の方が長蛇の列を作っていました。



外国人無料相談会

日時：毎月第1土曜日 14時～16時
場所：アイバル香川

生活上のトラブルなどで困っている外国人の相談に応じる「外国人無料相談会」を県行政書士会の協力を得て、毎月1回開いています。

グローバルトークキング

GLOBAL TALKING

日時:平成13年3月3日(土)
場所:高松市女性センター



香川大学
経済学部教授
井原理代氏

グローバルトークキングが今年で5回目を迎えました。最初の年は、もっと女性と仕事について、2年目からは人生のライフステージをシリーズ化して出産・育児・教育・仕事・女性とテーマを決めて開催してきましたが、最終回の今年には「豊かなシニアライフ」。香川大学経済学部教授の井原理代先生のオープニングトークで始まりました。

シニアライフということではどんな要素があれば、望ましい社会になるか。

次の2つが必要だと思います。まず、「個人の改革」これは一人ひとりが自立して生きるという意識を持ちましょうということ、もうひとつは「社会の改革」これはその場に必要社会的な支援策を作りましょうということです。

シニアライフの先進国であるデンマークの場合は……

デンマークでの現在の介護システムでは、一つの街の中で、満身にケアができる人口が大体7000人とされています。市の中心に教会があって、その傍に『プレステハウス』いわゆる高齢者介護の拠点(デイケアが24時間体制)があります。95年くらいまでは「プライエ」いわゆる老人ホームで生活していたのですが財政難となり、継続できなくなったので在宅介護と一緒に『プレステハウス』でケアするようになりました。現場の人間(訪問看護婦)が個人個人のケアのプランを作成します。デンマークの市民は75歳になると訪問看護婦のチェックを受けて、訪問ヘルパーのケアを受けるのです。適正な規模を考え、現場主義でシステムを決定することが、後々社会的なシステム充実と個人個人の自立につながっています。

※オープニングトーク(抜粋)

ゲストスピーカーの話

カロリン クレー(仏):



フランス人も人口の高齢化が問題になってきています。家庭の中でも、誰がおじいさん・おばあさんの世話をするかということが問題になってきています。同じアパートに兄弟が住んだりして、いつも近くに家族がいて、世話をしたりします。が、体調が悪くなったりすると看護婦を呼びます。それでもどうしようもなくなったら、ケア施設をお願いします。

ジャスティン ファピアノ(米):

高松市と姉妹都市であるセント・ピーターズバーグ市はフロリダ州にあり、フラットな地形と温暖な気候のため、アメリカ全土から退職した人が訪れます。退職後はボランティアをする人も多く、私の父も退職後は美術館のボランティアをしたり、眼の不自由な人のための朗読ボランティアをしたいと言っています。



エレナ坂居(フィリピン):

今は仕事中心で家族との関わりが薄い人が、退職した後に家族に対して自分の面倒を見ろといっても無理な話。子どもが小さいときから、少しずつでもいいから、コミュニケーションをとっておくことが大事だと思います。コミュニケーション・尊敬すること・セルフコントロールの3つを大事にすることですね。



史 麗萍(中国):



中国も老人が多いです。特に農村部に住んでいる老人は、なかなか行政のサービスを十分に受けられないという問題があります。彼らは野菜を作ったり、孫の面倒を見るなど家族と触れ合ったりして、彼らなりの役割を持っています。老人たちにとって大事なことは、健康・物事にこだわること・おせっかいをやくこと・歌ったりおどったりすること・住み慣れたところで友人たちと暮らすことだと思います。

最後に「自分がシニアになったときに誰とどこで生活していきたいか」という問いかけには、4人とも「家族で暮らしたい」と答えました。

農業研修を終えて

南昌市農業研修生
閻 國慶さん



農業研修を主に、西部支部(西部農協)で実施しました。盆栽や果樹栽培です。特に、温室栽培は、参考になりました。また、日本一といわれる盆栽は、中国にはありません。私は、ぜひ、この盆栽の技術を習得して(中途半端ですが)南昌市で流行らせたいと考えております。西部支部の皆様には、大変ご迷惑などをおかけしながらの研修期間でしたが、少しでも日中友好に役立てたかな、と思っています。

思い出は、浴衣での高松まつりや、中田部長さんなどと松江でカニを食べたり、いちごハウスで食べたいちごのおいしさなどです。とにかく楽しかったです。感謝・感謝

気に入ってます「高松」

セント・ピーターズバーグ市招聘教師
ジャスティン・ファピアノさん



23年前コネチカット州で生まれました。6年前エッカード大学で勉強するためにフロリダのセント・ピーターズバーグ市にいきました。1999年に卒業しました。1997年の秋に初めて日本に来ました。大阪府関西外大に通い、大学生の時、私の専門は環境対策だったので、まず環境問題を検討するために日本語を習いたかったのです。やっぱり、我々の生活が一番大きい問題ですね。

今、高松一高で大学生の時に習ったことをよく使っています。高松一高の学生たちは世界のあらゆる問題に大変興味があります。私は高松一高で生徒たちに英語を教える機会に恵まれてありがたく思っています。生徒からも私は毎日多くのことを学んでいます。周りの先生方にも親切にもらっています。また、毎週月曜日は高松市内の中学を訪問し、たくさんの中学生と楽しい時間を過ごしています。私は高松の生活をとても気に入っています。特に毎日自転車を乗り、うどんを食べています。今、私の好きなうどんは、田町のうどん市場のかけ玉うどんです。あそこはまちがいなくおいしいです。ぜひ自分の箸をもって行って、食べてください。



日米野球親善試合開催予定

日時：平成13年8月13日(月)

場所：香川県営野球場(オーリーブスタジアム)

高松市と姉妹都市であるセント・ピーターズバーグ市から野球選手の中学生15人が来高して、高松市内の硬式野球チーム・高松ドラゴンズ(中学生)と親善試合を行います。アメリカからコーチ5名と選手の保護者約20名も来高。ホームステイをして交流を深めます。詳細は後日お知らせします。



TIAの今後の事業予定

- 第9回 高松国際交流青年のつどい(7月)
- 外国人のど自慢・お国自慢交流大会(7月)
- セント・ピーターズバーグ市少年野球チーム来高(8月)
- 高松まつり「国際交流おどり子連」参加(8月)
- 外国人向け情報誌「TIAかわら版」の発行(6・8・11・2月)
- TIAニュース THE VOICEの発行(6月・12月)
- かがわ国際交流フェアの開催(10月21日)

日程が決まり次第、TIAのHPやちらし等でご案内します。

“日本語サロン”開設

毎週日曜日の午後から、会議室を利用して「日本語サロン」を開設しますので外国人の方、楽しく日本語を学びましょう。受講生受け中。

私費留学生助成金事業の変更について

今までの私費留学生助成金のシステムが4月から変更します。詳しい内容については、TIA事務局または各大学学生課の留学生担当の方にお問い合わせください。

I-PAL INFORMATION

- 4月** 4/1(日) スプリング・パーティー
4/14(土) **開始** ~9/29(土)
日本語講座・日本語サロン
(8月はお休み)
- 4/17(火) **開始** ~7/21(土)
アイバル外国語講座
- 4/20(金) 外国人のための法律相談
- 5月** 5/9(水) 国際交流講演会
5/18(金) 外国人のための法律相談
- 6月** 6/15(金) 外国人のための法律相談
6/23(土) 外国人による日本語弁論大会



編集後記

財団法人高松市国際交流協会「設立10周年記念」の特集号として、いつもよりボリュームのある編集となりました。特に「どうなる世界・DOする高松」のフォーラムは、テープおこしから時間を要しました。紙面の都合で抜粋した形になりましたが、経験豊かなパネリストの内容のある声を、大切にお届けします。高松のこれからの国際化を探るにふさわしい内容になっています。

また、今年はボランティア国際年と国連で定められています。グローバルはローカルから始まるという言葉どおり、地域や草の根のネットワークが力です。このVOICEがその力の一助になれる様、今後も期待します。

1997年より4年間、当協会の事務局長ならびにVOICEの編集長として、微力ながらいっばい関わることができましたこと、感謝しております。ありがとうございました。

吉岡 御井子